

ゆうかり放送委員会提供

# ゆうかりに乾杯

第96回放送の概要 (2015年5月23日放送)

## パーソナリティ

さくら (安本久美子)  
たろう (佃 由晃)  
なか (中嶋邦弘)  
かりん (妹尾優香)  
あな (岸本幸恵)



## ミキサー

門ちゃん (門田成延)

## 相談役

わだかん (和田幹司)

## 会計

小山俊則

(CM) 今年創業 92 周年を迎えるエキストラコーヒーでは、来月、6月7・8・9日の3日間、恒例の”サマーセール”を開催致します。今回は、本日のゲスト、田辺真人先生デザインの”カフェオレ・ベース”を新発売! 是非、ご来店ください。本日はエキストラ珈琲様 (TEL078-671-0135) のご協力をいただきました。

(CM) JR兵庫駅前の「神戸ルミナスホテル」抜群のロケーション、最新の設備と最高のおもてなし、ビジネス、観光の快適な拠点として皆様のお越しをお待ちしております。1階コロレではおいしいコーヒーや紅茶、おいしいランチやお食事なども楽しめます。本日は「神戸ルミナスホテル」様 (TEL:078-511-7700) のご協力を頂きました。

## 1. ゲストコーナ (1): 園田学園女子大学 名誉教授 田辺真人先生 (53 陽会)

田辺先生は震災後、FMわいわいで外国人に日本語を教える番組のパーソナリティから、田辺先生がYMCAで比較文化論や日本語の特色を講演していた関係で出演を頼まれ、毎週出演することになった。1997年頃に3年間程出演した。最後は長田の歴史を録音して流していた。教会に来たのはその時以来で、再建された教会の立派さに驚き、当時のFMわいわいはプレハブの鉄の階段を上っていったので、復興が進んだと思った。

番組のオープニングで話の出たホテルについて、先生が乱舞を見たのは鈴蘭台で、昭和33年頃、小学校3、4年生の頃に、菊水町10丁目の近所の散髪屋のおじさんに連れられ、駅を東側に降りるとJAのある信号までが家があり、その先は田んぼと畑ばかりで、そこで暗くなるのを待った。するとホテルが乱舞を始めた。ホテルの「ホ」は「火」で、天から火が垂れてくるように思って「ほ(火)た(垂)る」とよんだ。野坂昭如の「火垂の墓」はちゃんとした日本語を当てたもので、この虫を中国では「螢(ケイ)」と書いていた。1500年前に漢字が伝わって来た時に、ホテルという言葉进行分析せずに、中国文字の「螢」を日本語の「ほたる」に当てたので、日本だけはこの螢とい



う字をホタルと読んでいる。逆瀬川の上流、宝塚ゴルフ倶楽部の少し下流でホタルの養殖をしているが、逆瀬川支流の白瀬川や仁川の上流の滝口のあたりは、今年もホタルが沢山見られると思います。西宮北有料道路のトンネルを出た船坂から、神戸北線の山口南インターに行く途中の道路脇の金仙寺湖上流の河原でもホタルが見られる。今ホタルは復活している。

もともと学問、研究が好きで、鶴越小学校時代は天文学者、考古学者にあこがれ、夢野中学校のころは生物班であった。1年生の時、きれいなチョウチョを集めようとしたが、飛んでいるのを捕まえるのは3次関数を瞬時に解く必要があり、数学は得意でなかったので、1年ほど蒐集して終わった。自分の能力にあったものとして、2年生後半からは平面座標の運動をするカタツムリ(蝸牛)の採取を始めた。カタツムリは日本では1000種類ほど存在する。一番大きいのは徳島のアワマイマイで、直径4~5cmある。小さいカタツムリには親になっても直径1mmのものもある。

昭和38年兵庫高校に入り、史学や地質学に関心があり、2年生の時に世界史の授業が始まり、中島武志先生の授業を聞いてすぐに大好きになり、友達と同好会を作った。3年生では、育英高校から転任された名生昭雄先生(兵庫高校OB)から、一期生として授業を受けた。単なる物語ではなく、調査、研究も身近に感じる内容であった。

大学は1浪して関学の文学部に入った。2年生の世界史から歴史に入ったこともあって、大学ではギリシャ古代史を専攻し、外国語習得の必要を感じていたところ学園紛争が起こり、関学は5か月間封鎖になり、英語勉強のためパルモア学院に入った。月曜~金曜日まで、7時~9時に授業があった。ある夜、授業が終わってから元町駅に戻ると、当時はめずらしい外国人が売店で英字新聞を買っていた。その人に話かけると答えてくれた。ベトナム戦争中で、良心的徴兵拒否をしており、海軍の傭船乗組員になりぼろ船に乗って、カリフォルニアからタイを廻っていたが、故障したので三菱ドックで修理をしていた。その日は夜中までしゃべり翌日また会うことにした。結局1か月間ほど滞在している間、ほとんど毎晩話をした。3~4歳年上の真面目な人で、その人との会話で英語に対する支障はなくなった。

大学4年生では、ギリシャ古代史について卒論を書いていた。その時、パルモアのクラスメートに2歳年下の関学の社会学部学生で、ボランティア活動で小学校の子供の世話をしている人がいた。彼は、夏休みに東須磨小学校に近所の子供を集め校区の歴史を調べたが全くわからない。君は真面目な学生だから東須磨校区の歴史を教えてくれと頼んできた。東須磨は母方の母方の先祖が室町時代から住んでいる土地(もと大手村)で、そのような場所の事を聞かれて、史学科の学生といいながらギリシャの事は答えられても東須磨の事を答えられない事がショックであった。どういう手立てがあるかはわかるので、市史資料室を訪ねた。そこに落合重信先生と川辺賢武先生がおられ、東須磨の歴史を教えてほしいと言ったところ、ここはようやく市の沿革が分かったところで、市内の細かい地域についてはまだ十分わかりませんと言われた。あなたは若いので大事なことと思うなら調べて教えに来てほしいと言われた。その言葉を意気に感じ、本を探し調べたがなかなかわからず、2カ月ほどして調べたがわからなかったと報告に行った。そして参考文献を教えてほしいと言った。すると二人は顔を見合わせて笑い、本があれば自分で読むよと言った。世の中には誰も調べられていない事が一杯あるので、あなたに調査をお願いし、本でも書いて教えに来てほしいと思ったとのことでした。こうして大学4年で卒論を書いている時期に、同時に地域の歴史を調べ始めた理由である。

当時文学部史学科卒の男性の就職口はなく、ひよっとしてと思い、県立高校の歴史の先生の試験を受けると通ってしまった。そして卒業後、県立芦屋高校に勤めたが、高校の先生で西洋史の研究は少しむづかしい。そこで昭和45~46年頃に、名生先生から一緒に県下の調査をやろうと言われ、県内の民俗調査を始めてから、本格的に地域史、民俗学に進んだ。

東須磨の歴史を調べる方法は、母方の母の里であることが幸運で、母方の祖母が伝承型の人で、聞く

と色々教えてくれた。当時、一番古い体験を覚えている人は日露戦争であった。須磨白川のあたりで村芝居をしていたが、天下の一大事でそんなことしている時でないと言われて、止めたとい話を聞いた。テープレコーダーを持って廻ると、土地の民謡を集めることが出来たので、神戸の民謡をよく知っている。

(民謡の1節を披露)

須磨の前田のかきつの中にあやめ咲くとは知らなんだ  
咲いてしおれてまた咲く花は須磨の前田のかきつばた

あまりきれいでない唄では、  
大石新在家はなんで髪岩屋  
頭しらみがわきのはま

田辺先生は高校時代まで大変おとなしかった。2代続けて一人子で、祖父母と両親の5人家族で過保護に育ち、人前でしゃべるのは大の苦手だった。民俗調査に行き、話を聞いているうちに人との会話がすごく面白いと思うようになり変わっていった。

## 2. ミュージック：もう君はいない(福山雅治)

### 3. ゲストコーナ(2)

6月9日に、エキストラ珈琲で田辺先生が講演されます。珈琲の文化と神戸の歴史のお話です。サマーセール3日間の最終日になっています。

高校時代の兵庫高校にはすごい先生が沢山おられた。室井先生の授業は衝撃的で、1年生の最初の生物の時間に、ベルがなると運動場に集合という伝令が来る。出席をとり、運動場周りの草を出来るだけ多く採ってくるように言われ、30分間解散になった。30分後に出席簿順に並び、先生は生徒一人一人が採って来た草についてメモを取り、次の時間までに名前を調べるようにで授業は終わり。そして図書館の参考文献10冊ほどを紹介される。放課後に図書館に行き調べると、半分は著者室井紳になっていた。本を書いている先生だということで尊敬が集まった。すごい演出だった。古文の松田毅先生、現国の田村一二三先生など、授業の中のちょっとした話に教養が満ち溢れていた。そのような授業を3年間受け、芸術の先生は芸術活動をし、学科の先生は調査研究をしている人が多かった。田辺先生も高校の先生になり、そのような事をしたいと思った。大卒で赴任した芦屋高校は母校の兵庫高校に似ていた。音楽の先生には有名なバリトンの三室堯さん、美術の花畑和夫先生は武庫川女子大に引き抜かれ、その後の先生は高知大学教育学部が変わった。母校でも新任校でもこういうふうだったから、高校というのはでそのようなところだと思った。その後、高校を取り巻く状況も変わって、先生方も研究などとてもむずかしくなってしまった。

そこで、ちょうどタイムリーに出会ったニュージーランドの大学で、日本語を研究・教育し、帰国して、園田学園女子大学で教えることになった。皆が知っていることの意味を説明し、感動してもらっていた。

田辺先生の講演会などから受ける記憶術について、先生はこまめであるが、記憶力は良いとは思っていないそうです。何か疑問に思った時は確かめずにおられず、町を歩いていてわからない単語に出会うとメモをし、帰ってから辞書を引いて調べている。しかし次に出会った時はまだ覚えていないが、前に一度調べたぞということは覚えている。こういうことを繰り返していくうちに、徐々に記憶として定着する。年代については歴史は時系列であり、重要なものは長年やっているの身についている。必ず因果があるので年号を全部覚えているわけではない。

今出演されているラジオ関西の番組は、木曜日の朝6時から9時、10時まで「情報アサイチ」という三上公也さんの番組にコメンテーターとして出演し、新聞から得た話題についてコメントしている。日曜日は毎週10時～12時に「まっことラジオ」で街角の文化や歴史を取り上げ、また年2回、NHK神戸放送局の「新兵庫史を歩く」番組に出演しており、次回は6月13日(土)午前10時5分から45分間の高砂を歩いた番組が放送されます。大学までは人前で話をするのが嫌いで放送出演は考えられなかったが、思い返すと、ラジオ関西開局が昭和27年で、28年には会下山幼稚園の音楽クラブでラジオ出演しているので芸歴は古いといえるかもしれない。大学卒業後教え子の誰かが応募し、アップダウンクイズに出演し、十問解いてハワイに行った。その後は書いたものの朗読、サンテレビのディレクター門前喜康さんと町角の歴史番組づくり、神戸ニューアングルや好き神戸などで経験を積んだ。

先生の放送はラジオ関西のHPを見ると、過去の放送はポッドキャストで視聴できるようになっており、またyoutubeでも先生の講演、町歩きの様子が投稿されている。のじぎく文庫の「神戸の伝説」以来、随分沢山の著書も出版された。

先生の当面のイベントの一つは、平清盛の大河ドラマの頃から、船と瀬戸内海と歴史をテーマに、サンフラワー号で黒田官兵衛歴史ツアーを昨年は大分に9回行った。船上での話、中津の城下町の散策などを行うもので、詳細はサンフラワートラベルに問い合わせしてほしい。また近い予定としては、7月19日にすずらんホールで農村歌舞伎が、神戸市民文化振興財団と北区民センターの共催で開催されます。田辺先生のおはなし「官兵衛の中国大返しと太十・尼崎の段」があります。また兵庫は昔5つの国、但馬、丹波、播磨、摂津、淡路があり、この5つの国から民俗芸能に来てもらって、9月5日に兵庫県立芸術文化センターで「ひょうごの民俗芸能祭」が開催されます。田辺先生は案内人として出演されます。また兵庫高校関係者には、7月15日、NHK文化センター主催の「神戸ヒストリーウォーク～夢野から烏原・湊山～」がお勧めです。熊野神社→氷室神社→烏原水源地→掘割→五十段→千鳥が滝跡をめぐる。このコースは歴史がたくさん残っているところで、千鳥が滝から出てきた娘さんが、石井村のお金持ちを作り上げたといった珍しいお話があります。

## 5. 地域瓦版

須磨離宮公園春のローズフェスティバルが、6月28日(日)まで開催されています。180種4000株が見られます。王侯貴族のバラ園、バラの歴史と文化園などがあります。入園料は大人400円、小人200円です。

6月9日(火)神戸文化ホールで、津村美妃さん(90陽会)のグループ「サクソフォンカルテット-コパン-withパーカッション」のロビーコンサートが開催されます。料金：一般/500円です。

《アフターヌーン コンサート》 開場 13:30/開演 14:00

《イブニングコンサート》 開場 18:30/開演 19:00

## 6. 来週のゲスト

第5週の土曜日も放送があります。来週のゲストはバックパッカーの経験が豊富な、栗原伸行さん、宮本陽子さんにお越し頂きます。

ゆうかりに乾杯の過去の放送音声と文書化した放送概要は、下記URLで視聴いただけます。

<http://yukari.hyogo.jp/>